



No. 50
2017 Spring

山松舎
臨南寺

けられたからではないでしょうか。

永平寺を真の修行道場に

お釈迦様から伝わる正伝の仏法を後世に伝えるためには、たった一人でも良いから次代に伝えることのできる弟子を育てなければなりません。その思いは危機感といえるまでに募りました。

まず「永平寺住侶心得九箇条」を制定しました。これは、「国の職にはつかない。訴訟を起こさない」など、僧侶が政治にかかわってはならないと定めたのです。如浄禅師の「権力者に近づくな」という教えの具体化といえます。

さらに、「永平寺庫院制規五箇条」、「永平寺衆寮清規」と、次々と規則を定めていきました。これらには、いずれも修行僧たちの生活の仕方や修行に打ち込む方法が細かく決められています。永平寺を、これまで以上に「正伝の仏法」を伝える真の修行道場にしたい、真の弟子を育てたいという道元禅師の思いが溢れているのです。

いよいよ弟子とともに修行に打ち込む禅師ですが、その話は次回といたします。

特集

道元禅師ものがたり 23



若き執権 北条時頼から贈られた 二千石の土地を受け取ったのでしょうか？

鎌倉を発って永平寺に

若い北条時頼から「いつまでもそばにいてほしい」と頼られた道元禅師ですが、鎌倉での生活が半年も過ぎると、永平寺に残してきた弟子たちのことが気になり始めます。引き止める時頼を振り切るように、鎌倉を発って永平寺に帰り着いたのが宝治二年（一二四八）三月十三日でした。

帰山した道元禅師を迎えたのは、懐かしい山であり、雲でした。道元禅師はその喜びを弟子たちに語っています。

「鎌倉にいた半年は、虚空にかかる孤独な月のような気分だった。山に帰ってくると、雲までが喜んで迎えてくれる。山を愛する気持ちはさらに深まった気がする」

帰山した翌日から、疲れも見せず弟子たちに説法を行っています。

二千石の寄進状

越前に帰ってしまった道元禅師を追いかけるように、北条時頼は越前の国にある二千石の土地を永平寺に寄進し

ます。道元禅師への追慕の気持ちは何とか表したかったのです。しかし、道元禅師はそれを受け取ろうとはしませんでした。

そこで時頼は、鎌倉に残っていた禅師の弟子で首座を務める玄明に、その寄進状を持たせて永平寺に帰らせたのです。玄明は喜びを抑えられず、会う人ごとに「二千石もいただきました」と吹聴して回りました。

そのことを人づてに聞かれた禅師は、「その喜ぶ心が汚い」といわれて、帰ってきた玄明を破門され、永平寺から追放されました。それだけでは収まらず、玄明が坐禅を組んでいた牀まで切り取ってしまったと伝えられます。

道元禅師らしからぬ激しさですが、これは玄明が首座を務める高弟でありながら、師の思いを察することができず浮かれて触れ回ったことに衝撃を受

牡丹餅を好みし夫を恋ふ彼岸 柏村陽子

三月二十三日の彼岸会に

ご家族そろってお参りください



昼と夜の長さが同じになる春分

の日を「彼岸の中日」といいます。

春分の日の前後三日ずつをあわせ

た一週間を「お彼岸」と呼びます。

今年は、十七日が「彼岸の入り」、

二十三日が「彼岸結願」になります。

お彼岸は、平安時代の初め朝廷

で行われたのが始まりで、やがて武

士にも広まり、江戸時代に庶民に

普及しました。春分の日には太陽

が真西に沈みます。西方浄土を拜

むのに最適な時期として定着した

ようです。

悩みと迷いにあふれたこの世

「此岸」に対して、「彼岸」は執着

から解き放たれた安らかなあの世

のこと。お彼岸の七日間は、彼岸に

渡るために生活を見直すとともに、

ご先祖様のご冥福を祈る追善供養

の時でもあります。



ご家族そろって彼岸会にお参りください

臨南寺では、彼岸結願の二十三

日に午後一時から彼岸会施食会を

修行いたします。彼岸会施食会を

は、亡くなられた方の冥福をお祈

りし、先祖供養の法要を行います。

ご家族そろって彼岸会施食会にお

参りいただき、ご先祖様に手を合

わせましょう。当日ご都合の悪い方

は、不参にてのご回向をお受けいた

しますのでお問い合わせください。

寺景 臨南百景



酉年には

不動明王様に

お参りを

今年(きねどし)は酉年(うしどし)です。不動明王様は、酉年の守護神です。今年(ことし)一年、祈願成就や開運、そして厄除けに、お力を貸してください。とりわけ酉年に生まれた人々を見守ってください。

不動明王様の真言は「ノウマクサンマダバザランセンタンマカロシヤダソワタヤウンタラタカンマン」です。その意味は「不動明王よ、迷いを打ち砕きたまえ」です。

不動明王様は、怒りの表情で目を見開き火炎の中にお立ちになっています。

す。これは、お釈迦様が菩提樹の下で坐禅を組んで悟りを開かれた時、自らの煩惱を焼きつくしている心のお姿だといわれています。



圓通閣の観世音菩薩様の脇にも不動明王様



弁天堂の不動明王様

折させようと押し寄せ、問答を挑んだり、女性に誘惑させたりしました。しかし、お釈迦様は微動だにせず降魔の印を結び、魔王群を説破し、降伏させたと伝えられます。不動明王様の怒りの表情は、その時のお釈迦様の心を表現した姿であるということです。日々の暮らしの中で迷いや悩みに押しつぶされそうなきは、不動明王様のお姿を思い浮かべると効果的かもしれません。

住職
日誌

「二月は逃げる」と

いいいますが…

本年も早いもので春の彼岸会を迎える季節になりました。当

寺においても三月二十三日に彼

岸会施食会を修行いたします。

彼岸会施食会では、檀信徒各

家、墓地に埋骨されているご先

祖様、有縁無縁の諸精霊とともに

に、阪神淡路大震災・東日本大

震災・熊本大地震等々での物故

者の方々にもご回向いたします。

本年三月十一日には、東日本

大震災でお亡くなりになった方々

が七回忌を迎えられます。時間

の経過の速さが身に沁みます。

当山でも、大本山永平寺・大本

山總持寺共催の復興祈願桜の

苗木を頂戴して、山門手前の右

側に植樹しております。いつの

臨南寺 住職 大澤正道



日か、大震災の復興とともに見
事な大輪の花を咲かせてくれる
ことを祈念してやみません。

合掌



山門の右側にある復興祈願桜

臨南寺行持予定（三〜六月）

○ **彼岸写経会** *三月二十日 午前十時〜午後三時（受付は随時）
亡くなられた方やご先祖を偲びながら、一文字一文字心を込めて、お写経なさいませんか？ 大本山總持寺に納経させていただきます。（納経料千円）

○ **彼岸会お墓経** *三月二十日・二十一日 午前十時〜午後三時（受付は随時）
お彼岸のお墓経を承ります。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。ご希望の方は塔婆の準備がございますので必ず事前にご連絡ください。（回向料二万円）

○ **マトリお墓経** *三月二十日・二十一日 午前十時〜午後三時（受付は随時）
お彼岸のお墓経を承ります。お申し込み多数の場合は各家ご同席での読経になります。ご希望の方は塔婆の準備がございますので必ず事前にご連絡ください。（回向料二万円）

○ **春季彼岸会施食会** *三月二十三日 本堂にて 午後一時〜午後三時（受付は二時三十分まで）
お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。（回向料二万円）

○ **釈尊降誕会（花祭り）** *四月八日 午前九時 本堂にて
お釈迦様の生誕の日に、感謝と報恩の法要を行います。誕生仏に甘茶を注いでお祝いします。

○ **マトリ合同法要** *五月十四日 午後一時〜
マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。布教師様の法話の後、マトリでご焼香していただきます。

早朝坐禅会

毎月第一土曜日（二月、八月は無し）午前六時半〜 本堂にて

写経会

毎月二十日（八月は無し）午前十時〜午後三時 写経料・千円

*いずれも急きょ中止になる場合がありますので、前日に確認してください。

お気軽にご参加ください

どうぞよろしくお願いいたします

昨年十二月よりお

勤めさせていただいて

おります岡崎美穂

と申します。

臨南寺にきてから

毎朝手を合わせ読経

していますと、とても

穏やかな気持ちになります。ご先祖様を思う気持ち

ちや感謝の気持ちが自然と湧いてきます。

私が松原に住んでいた小学生の頃は家に仏壇があり、

毎日仏様に手を合わせることは自然とできておりました。

でも、家を離れ、結婚し、三人の子供に恵まれ、毎日

日があわただしく過ぎていく中でそういった大切な

事を忘れていたように思います。

お寺での仕事は初めてです。まだまだ分からない

事は沢山ありますが、一つひとつ覚えていきたいと思

います。

ご先祖様を通じて今のご縁に感謝し精進して参

ります。どうぞよろしくお願いいたします。



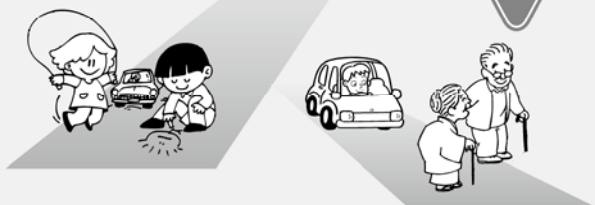
岡崎美穂

お車でお越しの皆さんへ

昨年、当寺院の境内地で数件の人身事故が発生しました。境内では最徐行で通行してください。

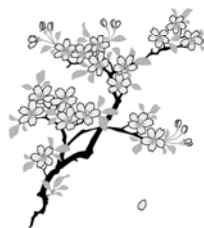
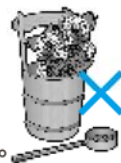
今後改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを全面的に禁止いたします。

なお、境内地内での事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。



墓苑をご利用の皆様へ

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。



ツタリですね。

潔」とか、可憐な花にビ

咲かせます。花言葉は「純

津桜です。本堂裏の染

境内で一番早く咲く

のは、本堂前にある河

もうじき桜の季節ですね



編集後記

スマホはとても便利です。でもどうしてなのでしょうね。歩きながらスマホしたり、電車に乗ればすぐスマホ。レストランでも話も食事もそっこのけで自分のスマホに熱中しているカップル。何だか日本中がスマホの奴隷になったみたい。私はスマホはやりません。(M)

「ほ〜っと」50号

平成29年2月

編集・発行：稜伽林「ほ〜っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-667-638

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com